



JAPIC NEWS

July
2020
No. 434

7

contents

■ 巻頭言

GS1(ジーエスワン)と医療のつながり

GS1ヘルスケアジャパン協議会会長/東京医療保健大学学事顧問 落合 慈之 2

■ インフォメーション

7月末発売! 4

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2020年7月版」

JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2020年7月版」

医薬品集発刊! 5

JAPIC「医療用医薬品集2021」CD-ROM付 9月初旬発刊

JAPIC「一般用医薬品集2021」 9月初旬発刊

JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2021」 8月発刊

■ トピックス

JAPICサービスの紹介 - 医薬品添付文書情報関連データ -

⑪ JAPIC PIA 院内採用医薬品集作成システム 6

⑫ JAPIC 辞書データ

⑬ Japic-DI

JAPICサービスの紹介 - 医薬品情報に関するデータベース -

① PharmaCross(医薬品情報総合検索サービス) 8

■ コラム

くすりの散歩道No.137「ミステリーに挑む研究者」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 後藤 拳弥 9

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋) 10

■ 図書館だより No.360 11

■ 情報提供一覧 11

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

GS1 (ジーエスワン) と医療のつながり

GS1ヘルスケアジャパン協議会会長
東京医療保健大学学事顧問

落合 慈之 *Ochiai Chikayuki*



GS1という言葉をご存じだろうか。あまり耳慣れない言葉かもしれない。

GS1とは、商品を取引するための商品コード、そしてその商品コードを機械的に読み取れるようにするためのバーコードについて、世界的にルールを定めている国際機関である。GS1 (ジーエスワンと発音) が正式名称であり、何かの略語ではない。

このGS1のルールに則ったバーコードは、既に日常の至るところで見かけられる。

バーコードの歴史は、1974年にアメリカで、1つのガムから始まった(図1)。それから数十年がたち、現在ではどのスーパーやコンビニを見渡しても、バーコードの貼られていない商品の方が珍しい。最近ではバナナなどの生鮮食品にまで貼付されており、レジでは当たり前のようにバーコードが読み取られている。

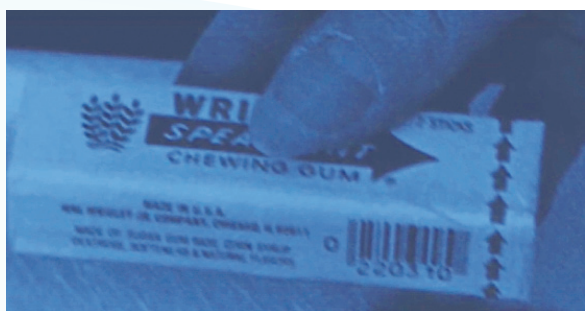


図1 最初のバーコード
出典: GS1本部作成ビデオ (45th Anniversary of the Barcode's Debut)

レジでの誤入力を防止し、レジでの登録作業を大幅に簡素化させたGS1のバーコードは、近年、医療の分野でも使用されるようになってきた。偽造医薬品の被害が少なくない海外では、それらを市場から排除するため、全ての医薬品にGS1のバーコードを付し、商品コードに加えてシリアル番号を表示する動きも活発化している。医療機器についても、ロット番号や有効期限な

ど、医療安全に重要な情報をバーコードで表示し、それを読み取ることで、個々の医療機器の管理に役立つ動きが進んでいる。

わが国はどうかというと、海外よりかなり早い段階から、医療業界が主導する形でGS1バーコードの導入が進められてきた。この結果、わが国では既に多くの医療用医薬品や医療機器等で商品特定のための商品コードに加え、有効期限・ロット番号等がバーコードで表示されている(図2)。現時点で、日本の医療製品のバーコードの表示率は、世界トップクラスと言える。



図2 GS1バーコードの表示例(日本の医療用医薬品)

医療業界といっても、今までは、メーカーから卸を経て医療機関の入り口まで、いわゆる流通の世界で利用されてきたバーコードであるが、これからはメーカーが表示しているGS1バーコードを病院や薬局など医療現場でも積極的に利用することが望まれる。GS1バーコードに含まれる情報を活用することは、医療機関自身にとってもメリットが大きいからである。

医療現場では、医療製品個々を独自に管理するため、別途、独自のバーコードを用意してそれらに貼ることも行われているが、メーカーがもともと表示しているバーコードをそのまま使えば、バーコードラベルの作成コス

トや貼付のための労働コストを削減することができ、ラベルの貼り間違いも生じない。そして何より、世界共通の商品コードとロット番号が記録されることで、仮に、その商品に何らかのトラブルがあったとしても、迅速にその商品特定することが可能になる。もちろん、院内独自コードが必要になる場面もあるが、データベースでGS1バーコードと紐付けるなどして、目的に沿う形で、使える部分は“うまく”GS1バーコードを使うのがよい。

今から10数年前、NTT東日本関東病院の院長時代にこのGS1という仕組みに出会い、GS1バーコードは今後の物品管理や医療安全に大きく寄与するものと直感した。それ以来、医療機関におけるGS1バーコード利用を普及するための活動を行ってきた。

NTT東日本関東病院ではすべての手術用鋼製器具にGS1バーコードを刻印(Direct Part Marking)し、個々の機器がいつ誰に使用されたのか、今どのコンテナに保存されているのか、コンテナに使用されていない無駄な機器はないかなどを可視化できるようにした。不必要な機器を削減し、個々の機器レベルでトレーサビリティを確保することで医療安全の面でも大きく向上をみた(図3)。これについては国内外で学会発表を行ってきたが、海外からの問合せも少なくない。それだけ、世界の多くの医療機関が、多様な種類・規格がある医療製品の管理とその安全確保に苦慮しているということであろう。

もともと業界主導ではじまったGS1バーコードの表示は、2006年に発出された厚生労働省課長通知により一層の実行が推奨されてきたが、さらに昨年11月に成立した改正薬機法の中で、その実行は法的にも義務付けられることとなった。加えてそこには、医療現場におけるGS1バーコードの利用・普及についても言及がある。予定どおりであれば、この改正は、2022年12月に施行される。

GS1に初めて出会った当時は、周りの医療関係者でGS1を知っている人はほとんどなく、GS1を広めようにも広められない状況であったが、ここ数年でかなり状況が変化してきたように感じている。

個々のステークホルダーが独自にシステムを創るのではなく、メーカー・卸・医療機関・施設・薬局さらには患者・家族に至るまで、全ての関係者ができるだけ共通の基盤を使うことで、医療の効率化・安全を図ろうという機運の高まりを感じるからである。

GS1はバーコードだけでなく、電子タグの国際ルールも定めている。これらをうまく活用すれば、日々、多くの医療関係者が多大なりソースを割くことを余儀なくさせられている医療製品の識別・管理・確認・記録などの作業を、より効率的に、より正確に行うことも可能になる。

急速なグローバル化が進む中、国際標準のGS1のバーコードそして電子タグは今後ますます存在感が増していく。日本の医療界全体という視点で考えるとき、正しいデータに基づいた議論を可能にするためにも、標準化された共通のルールのもとでIT化・デジタル化を図る必要がある。バーコード等のGS1標準が患者・家族を含む医療関係者全員に“うまく”活用されていくことを願っている。

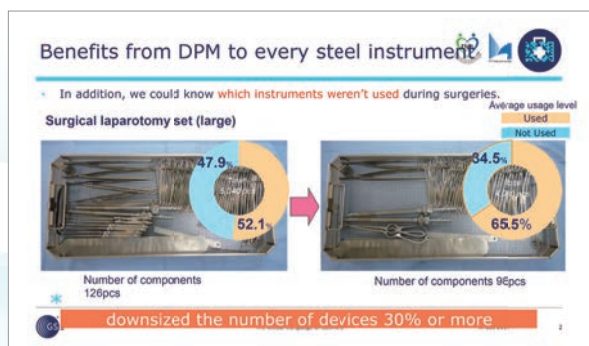
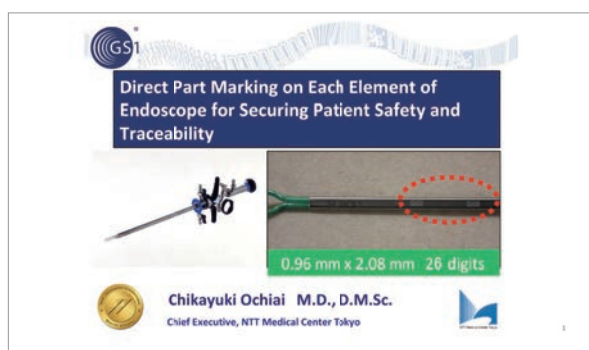


図3 鋼製器具のバーコードの刻印、コンテナ削減効果に関する国際会議発表内容

7月末発売!

JAPIC「医療用・一般用医薬品集インストール版2020年7月版」

- ◇医療用および一般用医薬品の添付文書情報を収録したWindows対応CD-ROM。
(医療用は2020年6月、一般用は2020年6月までのJAPIC入手分を収録)
- ◇製品情報、医薬品集本文データの検索・表示・印刷・データ出力が可能。
データ出力形式は、タブ区切り/カンマ区切りテキスト(csv)から選択できます。
- ◇薬価、先発品等/後発品情報、規制区分、剤形、添加物、
薬剤識別コード情報なども収録し、さまざまな角度から検索できます。
- ◇完全インストール仕様により、スピーディな検索・結果表示を実現。
インターネット環境のない薬剤モニタリング業務などにも最適です。
- ◇インターネット経由で、最新の添付文書PDFの表示も可能です。
(医療用:週1回更新、一般用:月1回更新)

- ◆価格:単回 13,000円(+税)
年間セット4枚(7月・10月・1月・4月) 23,806円(+税)

[お問合せ先]

事務局 渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



JAPIC「OTC医薬品CD-ROM 2020年7月版」

- ◇一般用医薬品(一部の医薬部外品含む)の添付文書記載情報
(2020年6月までのJAPIC入手分)を収録したWindows対応CD-ROM。
- ◇一般用医薬品データの検索・表示・印刷・テキストデータ出力が可能。
- ◇「要指導医薬品」(スイッチ直後品目・劇薬等)も掲載しております。
- ◇検索項目は、成分名、添加物、リスク区分や小児に使える医薬品等。
- ◇インターネット経由で、添付文書PDFの表示も可能です。
- ◇JANコードによる製品直接表示機能も搭載。

- ◆価格:3,000円(+税)
[年1回発行(次回発行は2021年7月予定)]

[お問合せ先]

事務局 渉外担当 (TEL:0120-181-276、FAX:0120-181-461)



医薬品集発刊!

JAPIC「医療用医薬品集2021」CD-ROM付 9月初旬発刊

◆6月の後発品収載に対応◆

《本書の特長》

- ◇2020年5月の新薬収載、6月の後発品収載分までの医療用医薬品を網羅（約21,000製品）
- ◇医療用医薬品添付文書情報を有効成分（約2,300成分）ごとにまとめて掲載。
約1,400成分については「構造式」も掲載
- ◇先発品（またはそれに準じるとされる医薬品）と後発品及び局方品が明確に
区別できるように記載
- ◇同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果が異なる場合はその違いを明記
- ◇医療用医薬品添付文書情報・一般用医薬品添付文書情報・医療用医薬品識別コード情報を収録し、
最新医療用医薬品添付文書へのリンク機能*を搭載した検索性CD-ROM（インストール版）を添付
*インターネットを經由してJAPICが運営するiyakuSearch掲載の添付文書PDFを表示
- ◇本文2分冊+その他（付録、薬剤識別コード）1冊の3分冊を予定



◆価格：13,000円（+税）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）

JAPIC「一般用医薬品集2021」 9月初旬発刊

《本書の特長》

- ◇国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅（約10,500製品収録）
- ◇「要指導医薬品」（スイッチ直後品目・劇薬等）も掲載
- ◇最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集
- ◇付録に重篤副作用疾患別対応マニュアル、国内副作用報告の状況、リスク区分情報等を収録



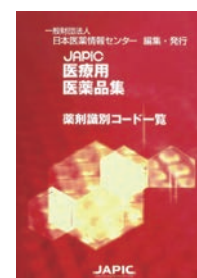
◆価格：9,000円（+税）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）

JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2021」8月発刊

《本書の特長》

- ◇識別コードから薬剤の商品名を調べられる一冊
- ◇医療用医薬品集掲載の医薬品のうち添付文書に識別コード・包装コードの
記載のある品目を掲載
- ◇掲載項目は識別コード、色・割線、商品名（会社名）、一般名、規格単位、
薬効からなり、医療用医薬品集本文の掲載ページも記載
- ◇薬剤識別コードの数字順、英字順、マーク順に配列



◆価格：1,000円（+税）・B5判

〔お問合せ先〕事務局 渉外担当（TEL：0120-181-276、FAX：0120-181-461）

— 医薬品添付文書情報関連データ —

11 JAPIC PIA 院内採用医薬品集作成システム

アプリケーション
販売

毎月
更新

■院内医薬品集を病院内で、低コストで、Wordで簡単に作成できるシステム

添付文書の多頻度改訂等で、院内医薬品集はあるものの、改訂に間に合わない、また、印刷業者への高額な支払いは難しい等のお悩みの医療機関の皆様にも最適です。

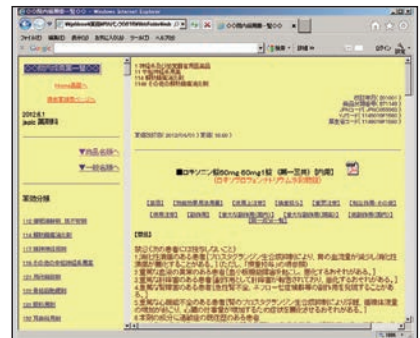
添付文書情報データは、JAPICの医薬品情報データベース iyakuSearch (毎月更新) とリンクしています。最新の添付文書イメージPDFを閲覧することができ、添付文書改訂情報や、新規採用薬の全文データを簡単にダウンロードすることが可能です。

提供内容

- 医薬品集、採用薬一覧を Word で作成
- 目次 (薬効別)、索引 (商品名順・一般名順) の自動作成 (適応症等のキーワード指定による逆引き索引)
- 最新の添付文書をダウンロード (iyakuSearch と直リンク)
- 院内 LAN 上での採用薬添付文書情報の閲覧・持参薬から同一成分薬の検索
- Excel、カンマ区切りテキストデータへの出力可能
- 同一成分薬の院外薬一覧の作成 (採用品同種同効薬<類似薬>も表示)
- 後発品 (ジェネリック医薬品) の管理可能
- 後発品に対応する先発品名も設定・表示
- 医薬品集配布後に改訂分、追加分の冊子作成
- YJ コード、JAN コード、GTIN コードから採用薬データの作成が可能
- 添付文書情報以外の独自情報も追加編集可



医薬品集として Word 形式で出力



HTML 形式で院内 LAN での情報共有

通信環境	院内 LAN による常時接続
必要なシステム	OS : Windows 8.1 / 10 Office : 2010 / 2013 / 2016 / 2019 画面解像度 : 1024 × 768 以上
ダウンロードサービス	サーバ接続での添付文書データの配信

*詳細は JAPIC ホームページ <https://www.japic.or.jp/service/cd/japicpia.html>
*無料 30 日間お試し版 CD-ROM 受付中

12 JAPIC 辞書データ

データ販売

JAPIC 辞書とは、JAPIC データベースの対象論文及び学会発表から JAPIC がキーワードとした医薬品名を統制語と慣用語 (論文中に出てきた用語) に関連付け整理したものです。

13 Japic-DI



医療用医薬品添付文書情報を提供するWebサービス

特長

電子カルテシステム等の外部アプリケーションからの要求に応じて、添付文書に記載された商品名・一般名・製造販売会社名といった医薬品情報や添付文書 XML・PDF を要求元に送信します。

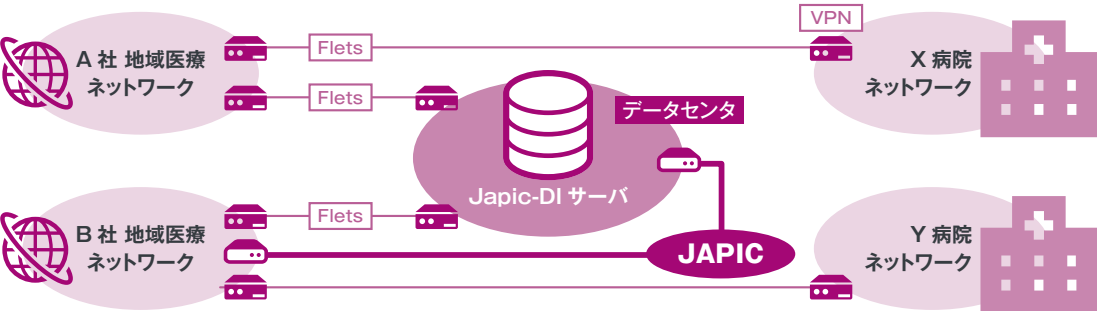
- 1 Web サービスを利用することにより、添付文書情報の更新作業が不要となり、いつでも最新の情報を利用することができます。
- 2 サービスを利用するアプリケーションに必要な情報だけを入手することができます。
- 3 VPN や認証機能を設置することにより、セキュアな環境でご利用いただくことが可能です。
- 4 商品名検索にあたっては、外部アプリケーションからの問い合わせに対し、検索エラーとなった商品名を収集し、検索のヒット率を向上させるための商品名メンテナンスを行っています。



- **検索項目:** 外部アプリケーションからの検索要求に利用することができる項目
商品名、JAPIC 添付文書 ID、YJ コード、HOT コード等
- **外部アプリケーションからの検索要求に対して、Japic-DI から送信される情報**
添付文書基本情報：商品名、一般名、総称名
規格単位
製造・販売・発売会社
改訂年月、薬価、後発品フラグ
添付文書全文 XML、添付文書 PDF

地域医療ネットワークと Japic-DI の利用

地域医療ネットワークを提供しているベンダー様の電子カルテシステムと Japic-DI を連携させ、地域医療ネットワーク傘下の病院・クリニックで最新の添付文書情報をご利用いただいています。



1 PharmaCross (医薬品情報総合検索サービス)

医薬品

国内

海外

JAPIC
維持会員対象

■PharmaCrossはJAPICが作成・提供する医薬品情報総合検索サービスです。

医薬文献情報、学会演題情報、添付文書情報をはじめとする JAPIC 医薬品情報データベース (iyakuSearch) 公開コンテンツのデータを中心に、医薬品集等書籍・CD-ROM のデータ等を集約した統合データベースです。

Yahoo、Google のような簡単な検索インターフェイスと、検索フィールドを指定する高度な検索インターフェイスを併せ持ち、簡単な検索インターフェイスには検索語入力支援機能を、従来型の検索インターフェイスには検索式構築支援機能を実装しました。

また医薬品成分ごとに医薬品情報を集約した「医薬品基本情報」、複数の検索結果を比較するための「比較ツール」等の機能も搭載しました。

コンテンツ

医薬文献情報	国内の医学・薬学関連文献から医薬品の品質、有効性および安全性に関する文献を収集
学会演題情報	国内で開催される医薬関連学会で発表された抄録・演題から医薬品の品質、有効性および安全性に関する演題を収集
医療用医薬品添付文書情報	国内で使用されている医療用医薬品添付文書の全文を提供
医療用医薬品添付文書情報 [規格別]	医療用医薬品添付文書を規格単位で DB 化したもの
一般用医薬品添付文書情報	国内で使用されている一般用医薬品添付文書の全文を提供
臨床試験情報	臨床研究・臨床治験等、臨床試験の概要について収録
日本の新薬	新薬承認審査報告書の全文 DB
承認	厚生労働省が承認した医療用医薬品・一般用医薬品の承認日に関する DB
JDM	JAPIC Daily Mail (国内外の医薬品・医療機器の安全性に関する規制措置情報をメールで提供するサービス) の DB (このコンテンツを利用するためには別途契約が必要です)

主な機能

● 簡易統合検索

JAPIC の各コンテンツをワンクリックで横断的に検索し、医薬品情報を表示します。予測候補を表示するサジェスト機能や関連語表示機能を実装し、検索語入力を支援します。医薬品名を入力すると検索結果画面左側に代表的な添付文書とインタビューフォームを、右側には医薬品成分ごとに医薬品情報 (医薬品集データの他、規制措置情報、有害事象、承認審査報告書・臨床試験情報へのリンク等) を集約した「医薬品基本情報」を検索・表示します。

● 詳細検索

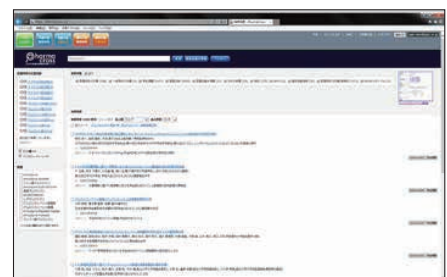
医薬文献・学会演題情報と医療用・一般用添付文書情報では、詳細検索インターフェイスを用意しています。各コンテンツの医薬品名、疾病名、副作用名等の項目を指定して検索するもので、AND・OR・NOT 等の演算子や括弧を使った検索を行なうことができ、検索式構築支援機能も実装しています。

● 利用者用個人領域 (マイフォルダ) の設定

検索に使用した検索式や検索結果を利用者ごとの個人領域 (マイフォルダ) に保存することができます。このマイフォルダに保存した検索結果を個人で編集・加工し、また複数の検索結果を比較する機能も実装しています。

● ニュース画面

TOP 画面には JDM Headline や PMDA メディナビ、厚生労働省 医薬品等安全性関連情報をご覧くださいことができ、他のコンテンツと一緒に検索することもできます。



くすりの散歩道

no.137

ミステリーに挑む研究者

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当

後藤 拳弥 Goto Kenya



ニュージーランド・オタゴ大学のNeil Gemmell教授らは、イギリス最大の淡水湖であるネス湖にてある生物の正体を追っていた。かの有名なネッシーである。最古の目撃記録はおよそ1500年前とも言われ、これまで1000例以上の目撃情報がある。科学技術の発展した21世期においても未だ謎に包まれているこの世界有数のミステリーに関して、昨年9月、Gemmellらの調査結果が報告された。研究対象についてはもとより、研究手法も一際独創的であったので紹介したい。昨今、理系出身者に限らず広く認知されることとなったPCR (Polymerase Chain Reaction) 法も取り入れられているのである。

Gemmellらは来る日も来る日も辛抱強く湖畔を見張り、やっとの思いでネッシー捕獲に成功し、遺伝子解析までやってのけた。という話ではない。残念ながらその姿は今日まで確認できていない。しかしながら、メタゲノム解析を専門とする彼らは「環境DNA」に着目することで、ネッシーを捕獲することなくその存在の有無を評価した。

環境DNAとは、土壌や水、大気といった環境サンプルから採取されるDNAを指す。そこには自然界の豊かな微生物の姿が一同に見られる。また、生物に由来する排泄物、粘液、表皮などから拡散したDNAを検出することで、ヒトの目で確認することなくその地に生息する生物が丸わかりとなる。田村淳と番組スタッフには大変申し訳ないが、現代科学の前では生態系調査において"池の水ぜんぶ抜く"必要はないようだ。

実際は以下の手順となる。ネス湖の250箇所まで水を採取し、そこからDNAを回収する。さらにPCRで増幅したDNAを次世代シーケンサーに供し、得られたシーケンスデータを既存のデータベースに照らして分析した。

その結果は、残念ながら恐竜(ここでは首長竜と言った方が正しい?)に結びつくDNAは発見されなかったという。また、ネッシーは大型魚類の見間違いではないかと以前から噂されていたが、巨大な

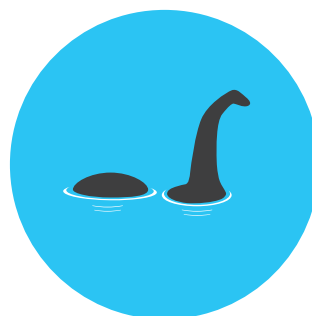
サメやチョウザメ、ナマズの証拠はなかった。そこでGemmellらが持ち出した推論は、巨大ウナギ説。ネス湖はウナギが非常に豊富で、DNAからウナギのサイズまではわからないが、巨大なウナギが巣くう可能性は大いにあるとのこと。大方の予想通りではあるものの、いざ大人の現実を突き付けられると夢打ち砕けた後の寂しさだけが残る。

一方で、この研究への興味はさらに続いている。今回、科学的なエビデンスが我々の期待を突き放す結果となってしまったが、この影響によりネス湖の観光客は減ってしまうのだろうか? 私自身に限って言えば、メタゲノム解析がなんだ、とモヤモヤが晴れぬままである。米国防総省がUFOの存在を認める世の中なのだから、非効率的・非理論的と言われるのが誰かがネス湖の水を全て抜く日が来るまでロマンは消えないであろう。同じように、未だ見ぬその姿をカメラに収めようと夢を抱く者が、今後も世界中から集まるのだろうと期待する。

このニュースに感化された当時は、まだ新型コロナウイルスの暗雲が我々に迫っていることなど知る由もなかった。日本国内をはじめ各国の観光地にもいち早く人の活気が戻り、また以前の姿が見られるよう、人類皆心を一つに願いたい。

<参考資料>

・First eDNA Study Of Loch Ness Points To Something Fishy
(<https://www.otago.ac.nz/news/news/otago717609.html>)



外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2020年4月1日～5月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No. 746-753) の記事から抜粋

■米FDA

- Class I リコール: Medtronic, デバイスの破損リスクにより, Pipeline Flex Embolization Devices をリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/medtronic-recalls-pipeline-flex-embolization-devices-due-risk-device-fracture>>
- Vascular Solutions, Inc., 使用中に分離するリスクのため, Langstonダブルルーメンカテーテルをリコール
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/vascular-solutions-inc-recalls-langston-dual-lumen-catheter-due-risk-separation-during-use>>

■Health Canada

- Summary Safety Review: Propyl-Thyracil (propylthiouracil) : 先天性欠損の潜在的リスクの評価
<<https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00235>>
- chloroquineおよびhydroxychloroquineは, 重篤な副作用を有する可能性があるため, 医師の監視下でのみ使用すべきである。
<<https://healthycanadians.gc.ca/recall-alert-rappel-avis/hc-sc/2020/72885a-eng.php>>

■EU・EMA

- Direct healthcare professional communication (DHPC): brivudine; brivudineの投与直前または同剤と同時に投与する場合, あるいはbrivudineによる治療終了後4週間以内に使用する場合の死亡に至る可能性のあるfluoropyrimidinesの毒性
<https://www.ema.europa.eu/en/documents/dhpc/brivudine-potentially-fatal-toxicity-fluoropyrimidines-if-administered-shortly-same-time-brivudine_en.pdf>

■独BfArM

- Xeljanz (tofacitinib) の Rote-Hand-Brief: 静脈血栓塞栓イベントおよび重篤かつ致死的な感染症のリスクの増大
<<https://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RHB/2020/rhb-xeljanz.html>>
- brivudine含有医薬品のRote-Hand-Brief: brivudineの使用直前, 同剤と同時にあるいはbrivudineの治療終了後4週間以内に使用する場合の死亡に至る可能性のあるfluoropyrimidinesの毒性
<<https://www.bfarm.de/SharedDocs/Risikoinformationen/Pharmakovigilanz/DE/RHB/2020/rhb-brivudin.html>>

■仏ANSM

- 髄膜腫のリスクと関連するcyproterone acetateの使用制限－医療専門家向けレター
<<https://www.ansm.sante.fr/S-informer/Informations-de-securite-Lettres-aux-professionnels-de-sante/Restrictions-de-l-utilisation-de-l-acetate-de-cyproterone-liees-au-risque-de-meningiome-Lettre-aux-professionnels-de-sante>>
- 下肢の動脈閉塞性疾患(AOMI)の治療: paclitaxel含有バルーンあるいはステントの使用は, 最も重症な患者に常に制限すべきである
<<https://www.ansm.sante.fr/afssaps/S-informer/Actualite/Traitement-de-l-arteriopathie-obliterante-des-membres-inferieurs-AOMI-l-utilisation-de-ballons-ou-de-stents-au-paclitaxel-doit-toujours-etre-reservee-aux-patients-les-plus-severes-Point-d-Information>>

■豪TGA

- vitamin B6 (pyridoxine) : 安全性に関する注意喚起－用量依存性の有害事象の可能性
<<https://www.tga.gov.au/alert/vitamin-b6-pyridoxine>>

■ニュージーランド Medsafe

- Monitoring Communication: fluoxetineとlevothyroxineの相互作用の可能性
<<https://www.medsafe.govt.nz/safety/Alerts/FluoxetineAndLevothyroxine.asp>>
- Monitoring Communication: 更新情報－dabigatran (Pradaxa) による血管炎の潜在的リスク
<<https://www.medsafe.govt.nz/safety/Alerts/Dabigatran.asp>>

■国際機関 WHO

- WHO Pharmaceuticals Newsletter No. 2, 2020
<<https://apps.who.int/iris/rest/bitstreams/1278131/retrieve>>

■医薬品医療機器総合機構

- インスリンバイアル製剤の専用注射器の使用に関する注意について
<<https://www.pmda.go.jp/files/000235004.pdf>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報 (海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については, JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は, 事務局 渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著者	出版者	出版年月
AHFS Drug Information 2020	American Society of Health-System Pharmacists	American Society of Health-System Pharmacists	2020年
British National Formulary No.79 March - September 2020	British Medical Association and Royal Pharmaceutical Society	The Pharmaceutical Press	2020年3月
CPS 2020: Compendium of Pharmaceuticals and Specialties Canada's Trusted Drug Reference	Canadian Pharmacists Association	Canadian Pharmacists Association	2020年
炎症性疾患に対する生物学的製剤と呼吸器疾患診療の手引き 第2版	日本呼吸器学会 炎症性疾患に対する生物学的製剤と呼吸器疾患診療の手引き 第2版作成委員会 編	一般社団法人 日本呼吸器学会	2020年4月
膠原病に伴う間質性肺疾患 診断・治療指針 2020	日本呼吸器学会・日本リウマチ学会合同 膠原病に伴う間質性肺疾患診断・治療指針2020作成委員会 編	一般社団法人 日本呼吸器学会・一般社団法人 日本リウマチ学会	2020年4月
適応・用法付 薬効別薬価基準 保険薬事典 Plus+ 令和2年4月版	薬業研究会 編	株式会社じほう	2020年3月
透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン (五訂版)	日本透析医会 [透析施設における標準的な透析操作と感染予防に関するガイドライン] 改訂に向けたワーキンググループ 編	日本透析医会	2020年4月
薬事ハンドブック 2020 薬事行政・業界の最新動向と展望	—	株式会社じほう	2020年3月

情報提供一覧

2020年5月1日～6月30日提供

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合はJAPIC 事務局 渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch) Free	https://database.japic.or.jp/
1. [一般用医薬品 (経済課コード)] 2020年5月分 (HP定期更新情報掲載)	6月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [JAPIC NEWS] No.434 2020年7月号	6月30日	2. 学会演題情報	月 1 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
1. [JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報] No.1232-1238	毎 週	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	5. 臨床試験情報	随 時
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	月 1 回	6. 日本の新薬	随 時
4. [JAPIC-Q 医療機器情報サービス]	月 2 回	7. 学会開催情報	月 2 回
5. [外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.4608-4647	毎 日	8. 医薬品類似名称検索	随 時
6. [JAPIC Weekly News] No.751-757	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
7. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.848-856	毎 週	〈iyakuSearchPlus) https://database.japic.or.jp/	
		1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
		2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日

外部機関から提供しているJAPICデータベース

〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 <https://jdream3.com/>

〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 <https://telecom.nikkei.co.jp/>

JAPIC

医療用

医薬品集 2021



赤ジャピ45年の伝統を守り
薬剤師を中心とした
専門のスタッフが丁寧に作成しています。

2020年9月
発刊予定



本書の特長

- ◆2020年6月後発品まで収録
- ◆約45年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新で正確な添付文書情報をお届けします！
- ◆「薬剤識別コード一覧」を収録
- ◆更新情報メールの無料提供（要登録）
- ◆CD-ROM付
- ◆分冊にて製作（ケース入り）

Windows版

CD-ROM収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付

要インターネット接続。医療用医薬品は週1回、一般用医薬品は月1回更新

13,000円(+税) B5判 約4,400頁(本文)

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行
丸善出版株式会社 発売

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

おおぼうしばな

「大帽子花」と書く。学名; Commelina communis L. var. hortensis Makino. 英名; Asiatic dayflower. つゆくさ科つゆくさ属。一年生草本。つゆくさの栽培種。7月頃青い花を付け花卉は青い色素を含む。京友禅の下絵を描くための青花紙を作る。近江地方では今も栽培。花卉からイミノ糖誘導体 α -Homonojirimycin(グリコシターゼ阻害活性)等含有。(hy)



JAPICホームページより
<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。